

2019年12月期 第1四半期決算説明会 質疑応答の要約

2019年5月9日(木)に開催した、ライブにおける決算説明会において、出席者の皆さまから頂いた質問をまとめたものです。GMO インターネット 代表取締役会長兼社長・グループ代表の熊谷、グループCFOの安田、GMOアドパートナーズ代表取締役社長の橋口より回答させていただきました。

●インフラ事業について

【Q1】 中長期戦略について「既存インフラ×金融」というテーマが掲げられたが？

【A1】 インフラサービスに金融の機能を付加することで成長を加速させたい。まずは、GMOペイメントゲートウェイでの金融関連サービス、そしてGMOペパボの『FREENANCE』が事業を開始している。その他各商材の特徴を活かしたネタをいくつか仕込んでいます（「既存のインフラと金融のシナジーの中にはGMOあおぞら銀行も重要な役割を果たすのか？」という追加のご質問に対して）そのためのネット銀行です。

●ネット広告メディア事業について

【Q2】 1-3月は広告繁忙期のはずだが、QoQで伸びていない要因は何か？

【A2】 10-12月期は広告代理、リサーチで大口需要があり、売上・利益ともに好調に推移しました。一方、1-3月期にはSMB向けの旧自社商材の販売終了があり、とくに利益面でのマイナスがありました。

【Q3】 ここ数年同じような状況が続き、精彩を欠いている。「弱いところはNo.1の商材をもつ」とあるが、現時点の弱みと今後強くするための各社の取り組みを教えてください。

【A3】 ネット広告市場の変化、すなわちアドテクシフトへの対応の遅れが課題だと考えています。足元の各社の注力領域としては、GMOアドパートナーズはコンテンツ型アドネットワーク広告『ReeMo』、GMO TECHはインフルエンサー広告の『GMO Casting Management』、GMOメディアはアフィリエイト広告、そしてGMOリサーチでは、インバウンド需要を見越した海外拠点、海外リサーチパネル数の拡大となっています。これら新しい取り組みについては一定の成果が出てきていると考えていますが、一方で、旧商材の落ち込みもあり、数字として成果が見えづらい状況となっています。今期は新しい自社商材・自社メディアを伸ばすことでセグメントとしてV字回復をやりきりたいと考えています。

GMO INTERNET

●仮想通貨マイニング事業について

【Q4】 現時点の損益分岐点、今後の設備投資金額を教えてください。

【A4】 足元はBTCの上昇により1Qより収益性が改善しており、利益は出ているが、具体的な数字は非開示としています。今後の設備投資金額については、北欧から移転すると電気代が60%削減できるため、格安でマシンが入手できる範囲においては収益性を確認しながら投資していく予定です。最大でも10億程度を想定しています。

【Q5】 マイニングマシンの設備投資のタイミングは？また、減価償却期間は従来通り2年か？

【A5】 3Qまでの700PH/sまでは、既存で保有するマシンの移転で賄われるため、年末の1,200PH/sに向けた残りの500PH/s分については新規購入を検討している。設備投資のタイミングは下期に分散して実施する予定です。また、減価償却についてはご指摘のとおりです。

●インキュベーション事業について

【Q6】 利益計上があったが内容は？

【A6】 以前より保有しているメルカリ株式の一部売却によるものです。

●あおぞらネット銀行について

【Q7】 持分法適用会社であるGMOあおぞらネット銀行の開業に伴い投資損失が増えているという説明があったが今期のPLインパクトについてどう考えればよいか？

【A7】 GMOあおぞらネット銀行は損益の14.9%を取り込んでいます。銀行のビジネスは口座獲得から始まり、顧客の積み上がりと共に、徐々に収益も積み上がっていくイメージです。昨年7月に開業し、まだまだ立ち上げ時期で、費用先行となっているが、改善をしていく予定です。（「2019年は投資フェーズになるのか？」という追加のご質問に対して）そのとおりです。

【Q8】 「更新API+SDKの提供」とあるが、コストのイメージは？

【A8】 内容はエンジニアの件数です。人員を急拡大しているわけではないので、それほど大きな金額とはならない見通しです。

以上